

ことにした。

Ⅲ. 中学部の研究の概要

1. はじめに

昨年度までの研究主題は、「発達に応じた個の育成と保護者との連携」であった。本年度も変わっていない。しかし、その研究主題をからだづくりという観点から見直してみようということであるから、当然めざすより具体的な目標を設定しておかないと、研究活動が共通理解できず混乱するだろう。そこで、「いきいきと行動する子」とめざす人間像を設定してみた。

設定の前提として、中学部では体づくりを健康を保つことと考へ、さらに健康な体には精神的な健康も含めて考へるという基本的な態度を共通理解した。その理由は、健康とは「健」も「康」も「すこやか」「やすらか」ということとであって、個がその状態を保つことが健康な状態であり、諸活動の原点だと思ふからである。

さらに、健康な体には、情緒的安定・精神的安定が大きく左右するからである。言い換へると、体と心は不離一体のもので、これを分けて考へることは研究のための研究になって、中学部がめざす「生きて働く力」の育成にはならないと考へたからである。

中学部では「いきいきと行動する子」をめざす研究的重点を、①生活リズムの確立 ②「朝の活動」の充実 ③性に関する指導の強化 ④コミュニケーションの確立 の4点とし、研究と取り組むことにした。その概要は以下のとおりである。

2. 研究主題の設定

研究主題「いきいきと行動する子」

中学部ではめざす子ども像として、「生活の中で生きて働く力を身につけた子」として創設以来指導に取り組んできた。今後もこのことに変更はない。

本年度設定した研究主題は、中学部のめざす子ども像（目標）を体づくりという課題から、より具体的に（より身近に）設定した目標である。研究の主題を達成することは、中学部がめざす「生きて働く力」に一步一步近づくことであると考へた。

そこで主題設定の理由だが、精薄児に特徴的に見られる無気力（活力の乏しさ）や意欲的な行動に持続性がない状態が、本校中学部の生徒には特に顕著に見られることから設定したものである。

特に、知的能力が重度化し心身の遅れの目立つ子ども達にとって、気力や意欲の発生・持続などということは容易なことではない。しかし、たとえ知能が遅れていても自分の足で歩き、自分の手で食べ、笑い、泣き、怒る子どもたちの生命力を見ると、まだまだ可能性を秘め、引き出してくれるのを待っているような気がしてならないのである。

従って中学部では、3つの運動との取り組みを中心に自らの健康を保ち、いきいきと意欲的に行動する子をめざした指導の工夫・実践を研究に選んだのである。

さらに中学部になると、たとえ最重度の生徒であっても、著しい性的発達の見られる時期である。例外なく戸惑いが見られ、情緒の不安定な状態が生徒の日常生活に何らかの影響を及ぼしている。情緒的安定、心の開放をはかり、

と体のバランスがとれている状態の中でこそ指導の定着度が高いはずである。
 「いきいきと行動する子」は、心身の発達の調和のとれた子であり、それがそのまま「生きて働く力」となって、社会的自立につながると共通理解している。

3. 研究との取り組みの構想

中学部の研究との取り組みを図示すると次のようになる。

生きて働く力を身につけた子



いきいきと行動する子



1. 生活リズムの確立
 - 1日の生活に軌道をして、反復しながら諸能力の定着をめざす。
 - ・学校での生活リズム
 - 帯び時間による毎日の学習の繰り返しによる能力の定着をはかる。
 - ・家庭での生活リズム
 - 学校⇄家庭で共通の課題を持つての生活。(連携の徹底)
 - ・生活ノートの活用
2. 体力づくりとの研究的取り組み
 - ・サーキット運動
 - 基礎的な運動機能の向上
 - ・ボール運動
 - ボール・友だちを意識した活動
 - ・リズム運動
 - 楽しんで取り組む姿
3. 性に関連した指導の工夫と強化
 - 性的発達に伴う不安動揺の実態把握と情緒の安定をめざした指導の事例研究
4. コミュニケーションの確立
 - 生徒⇄教師⇄親の連携の中で
 - ①長休憩・昼休憩を中心にした余暇での連携
 - ②家庭・学校での日常生活の中での指導連携
 - ③課題を意識した個別化の徹底(家庭との連携強化)

- 日常生活の観察の徹底と記録の工夫
 - ・生活ノート
 - ・個人カルテ
 - ・おたより(毎日)
 - ・生活記録等
- 運動機能のチェック
 - ・養護・訓練
 - ・体力づくりでのチェック
 - ・体力テスト
 - ・運動能力テスト等
- 諸検査
- テスト実施

中学部の合同研究の視点・内容